地下施設実態調査の概要について（報告）

資料４

稲荷山公園都市計画区域内に位置する地下施設について、令和４年度および５年度の調査において確認された３つの部屋を含めた全体像を把握するために、令和６年度においても調査を行い、出入口や通路等（以下、「通路等」という。）を確認した。

1　調査結果について

(1)　新たに２つの通路等（図１、通路等１および２）を確認した。
　　なお、地下施設の全体像は図１のとおりであり、他の地域への広がりは確認できなかった。

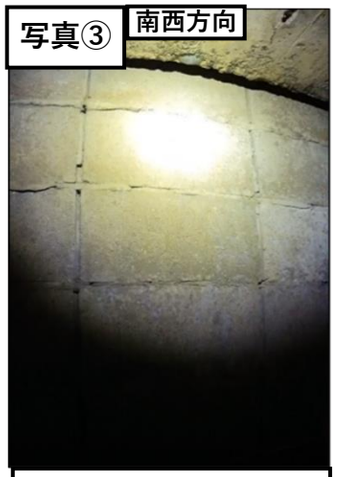
(2)　図１（B－１および２）の２か所でボーリング調査を行い、通路等の様子を確認した。それぞれの内部の状況は以下のとおり。

通路等１

部屋①へつながる通路等

部屋②へつながる通路等

通路等２



ブロック塀で出入口が塞がれたと思われる壁

空気孔からのごみの流入

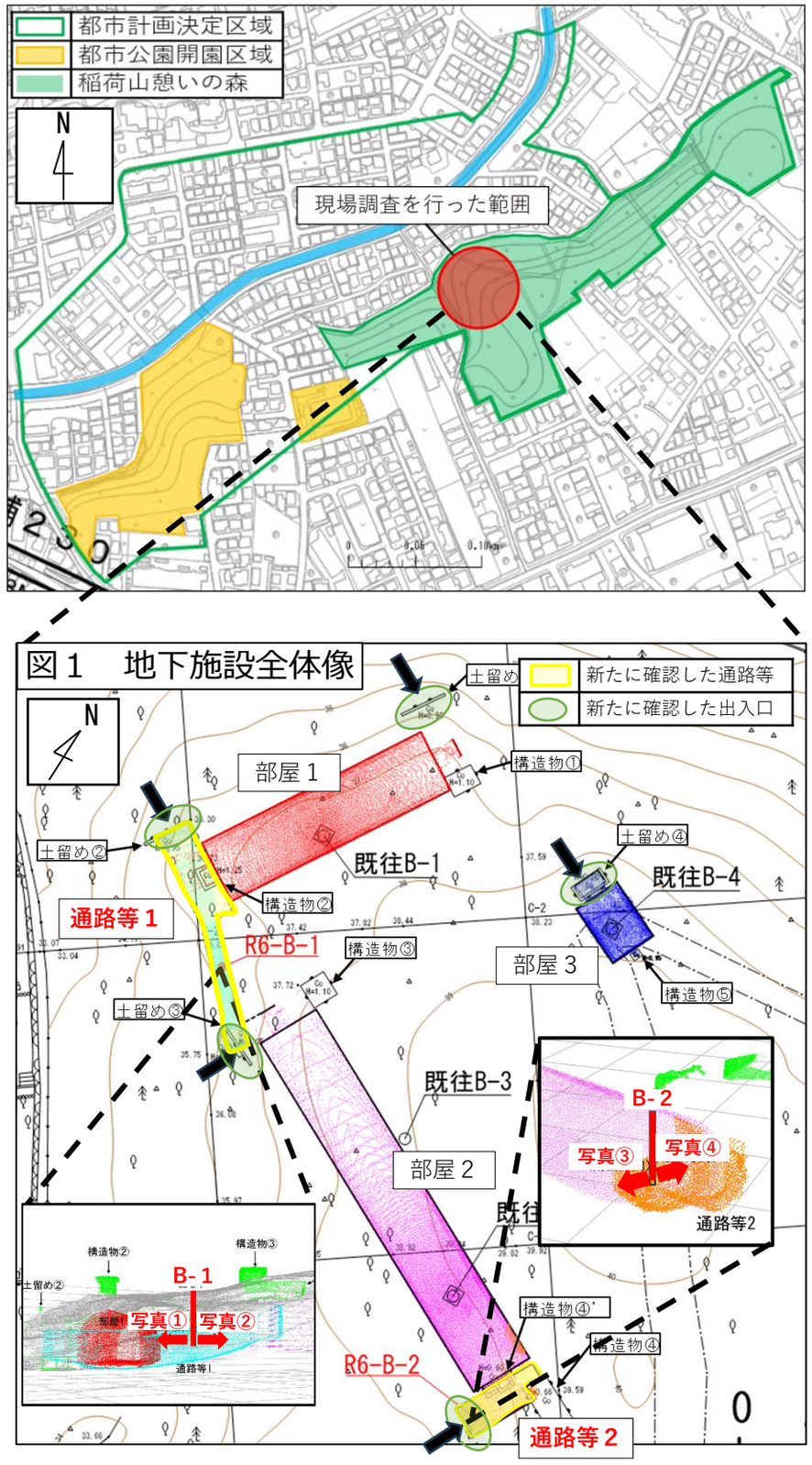
(3)　通路等の健全性については、コンクリート構造物として概ね安定している（※）ことを確認した。　【圧縮強度】令和６年度（２試料）：16.8～17.6 MN/㎡
（令和５年度（６試料）：13.7～32.2 MN/㎡）

※　ほとんどの試料において設計基準値（18MN/㎡（無筋コンクリート）、21～24MN/㎡（鉄筋コンクリート））と同等以上であり、坑内観察の結果、外力に起因するひび割れや剥離の様子は認められない。

2　今後について

(1)　関係部署（文化・生涯学習課）と連携し、文化的価値の観点から検証を進める。

(2)　調査結果を稲荷山公園ニュース等に掲載し、区民に対して周知を行う。



地下施設の全体像

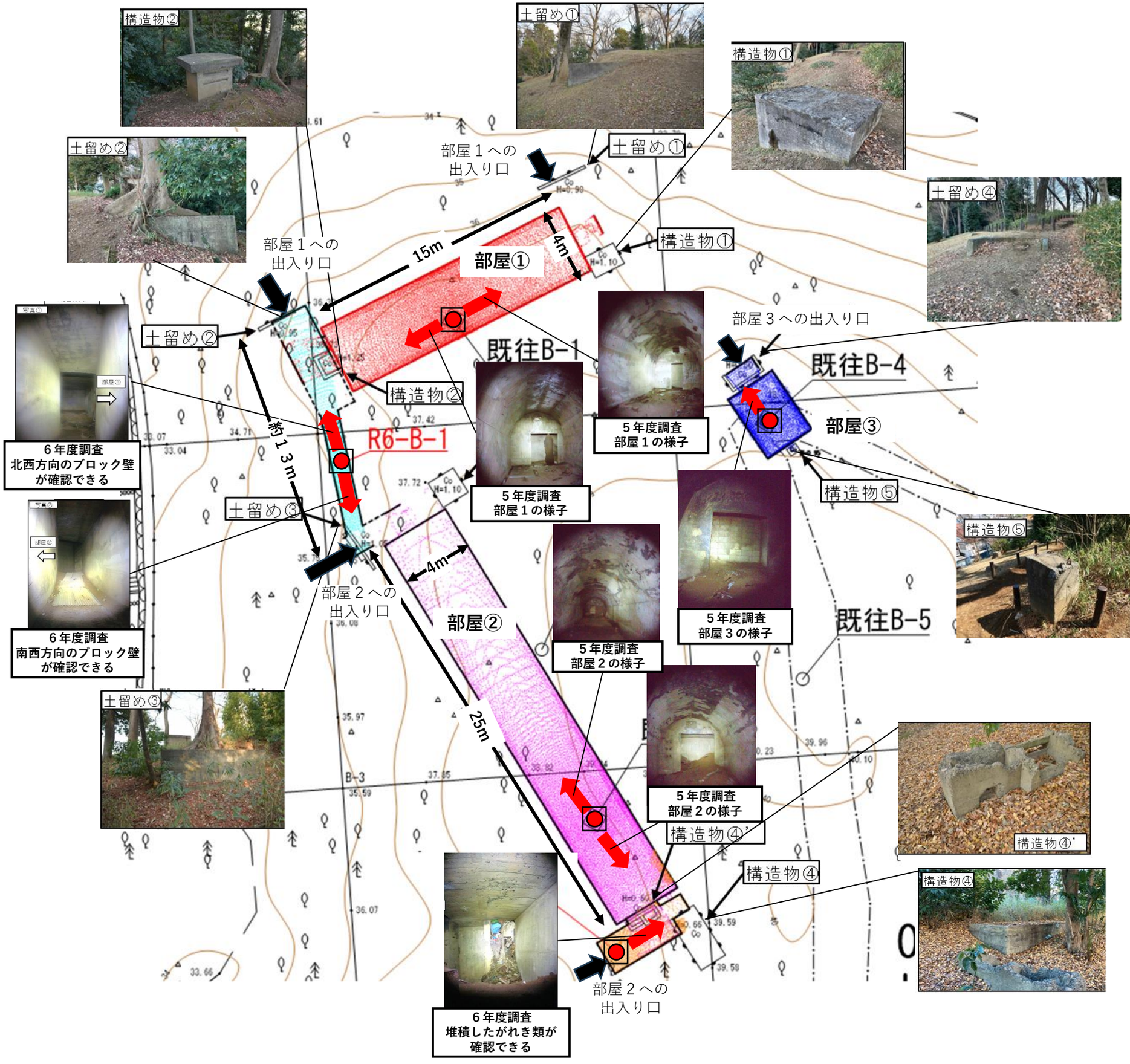
過去の調査

R4調査

○　主な調査内容
- 　資料調査
- 　地中レーダ探査

○　調査結果
- 　コンクリート構造物が地中に存在することを確認した。
- 　過去の文献に、戦時中の施設が存在していた旨の記載があることを確認した。

R5調査

○　主な調査内容
- 　ボーリング調査
- 　坑内観察、内空調査

○　調査結果
- 　３か所で空洞（部屋①～③）が確認された。
- 　コンクリート構造物としては、概ね安定していることが確認された。
- 　文献に３棟の地下施設が当該地域に存在していた旨の記載があった。